編集後記

▼新潟県は日本海に面し、海岸線は長く、長大河川が多く流れ、山岳から広大な平野をあわせて有し、森林面積も多いことから、海、川、森林等の生態系が豊かに存在し、生物の種類も豊富となっています。しかし近年「開発」の名による自然破壊がすすんでいます。この自然をいかに守り育て、子孫への遺産とするかは私たちの課題です。

自然の生態系を一方的に撹乱して、子ども達をとりまく生活環境は、除草剤が大量にまかれた公園や空地、農薬や化学肥料が施肥された水田や畑、造成のために森林や畑を削り取り、農薬で生物を殺しているゴルフ場やスキー場、護岸工事がなされセメントだらけの海と川、松食虫で枯れかかっている砂丘の松林等大きく変化しています。

この特集では子ども達の教育と変貌しつつある自然環境と子どもの問題を取りあげることにしました。（荒木）

▼河辺広男氏の「自然と子どもの発達」は、多方面から環境と子どもの問題を解明しています。なかでも、具体的信号に対する条件反射（第一信号系）と言語条件反射（第二信号系）との関連を詳細に論じて、「昨今の自然環境を人工的、非自然的なものに組み替えては、正常な第二信号系は育たない」と指摘します。子育てや教育の根源にかかわる問題と思います。その他、新潟自然科学館の問題については、県政が学問・文化を軽視した証左を明らかにしています。

▼吉村尚久氏の「水俣病の実態を新大生はどのようにとらえたか」は、学生の感想がたくさん引かれて、その一読だけでも講義の成功がうかがわれます。坂東弁護士に講義を依頼した理由のひとつに「今日の環境問題は生産を主とする人間の活動」から起きている点で「自然科学を対象とした理学部であっても、社会的な側面とのからみに注目する必要がある」ゆえと〝学際化〟も示唆。

▼「甘粕健新大教授にきく」（下）は、八幡林遺跡と本県の埋蔵文化財保存運動を中心にまとめました。博物館・資料館の現状など、お聴きできなかった問題は他日を期したいと思います。甘粕教授は、今春退官されますが、ひきつづき県内でご活躍されるとお聞きしています。

▼「米づくりと子育て」は、飯田耕平氏が長岡市に隣接する平場地帯の米と蓮根づくりの農業青年を訪ねて、その地の農業の将来を探っています。ここでも後継者の有無が大きな問題になっています。

▼小特集「いじめ問題、上越市からの発言」。上越市立春日中学校一年生伊藤準君のいじめによる自殺の問題について、地元で研究所会員が中心に緊急の懇談会を開き、その時の報告や発言をまとめました。「事件の概要」は小森氏に改めてまとめていただきました。（吉田）

にいがたの教育情報 No. 45

1996年3月1日発行

編集・発行　にいがた県民教育研究所

発行人　長﨑　明
新潟市東中通1－86 山崎ビル2F
〒951　電話（025）228－2924
振替口座・新潟4－12332
印刷所・中央印刷さぁびす

本誌内容の無断転載を禁じます。